

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	初 年 次 教 育 科 目	初年次セミナーI  この科目では、学部混成型で編成されたクラスごとに、様々な関心や知識を持つ他者と協働での学修活動を通じて、下記の「学習目標」の達成を目指す。それには、的確な情報を収集・精査・統合しつつ、自ら設定した課題に沿って論理展開を行い、適切な結論を導き出すという学習過程を、他者とのコミュニケーションを図りながら進めていく必要がある。 授業の内容は、各回ごとにテキストに明記されている。ただし、授業時間外学習に積極的に取り組んでもらうために、予習としての「事前学習」、復習としての「事後学習」、より深く学びたい人のための「発展的学習」それぞれの内容について、1回の授業ごとに具体的に示されている。 1クラスは30人程度で、複数の学部・学科の学生から成る。授業は、5,6人で1つのグループを基盤として様々な活動を行う。最終レポートは各自で作成するものの、そこまでの学習活動を他者と協働で行うことを通じて、自身の考えを他者に分かりやすく伝えることや他者の考えを受け止め自身の学習に活かす力を高める。	
		初年次セミナーII  この科目では、前期の「初年次セミナーI」と同様に、大学での学修に必要な基礎的な能力の向上に取り組むつつ、前期に学んだ論証をプレゼンテーションとレポートという2つの形式で適切に発表できるようになることを目指す。いずれについても、基礎的なアカデミック・スキルを前期中に習得していることを前提とし、ここではその発表・発信の仕方を中心として能力向上を図る。 授業は、テキストに基づき一つ一つの課題について順に学習を進めることを基本とする。教室では、事前学習課題や作成途中のプレゼンテーション及びレポートについての受講者間での話し合いを重視するため、資料の収集や分析等、個人で進めるべき学習活動については授業時間外に進めることが求められる。 1クラスは30人程度で、複数の学部・学科の学生から成る。授業は、各課題のテーマに関して、ペアやグループでコミュニケーションを図りながら学習を進める。ワークシートの内容確認や収集した資料の生かし方などについて話し合いつつ、根拠に基づく主張の意義を理解し、かつ分かりやすい表現などを修得して、適切な論証型プレゼンテーション及びレポートの作成能力の修得を目指す。	
		大学と地域  「大学と地域」テーマ：食と農水産業 鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス(7テーマ)から希望する1つを選択して受講する。 この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。	
		大学と地域」テーマ：防災 鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス(7テーマ)から希望する1つを選択して受講する。 この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。	
		テーマ：医療 鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス(7テーマ)から希望する1つを選択して受講する。 この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。	

授 業 科 目 の 概 要

（工学部 建築学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目	初年次教育科目	<p>「大学と地域」テーマ：「まちづくり」                      鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス（7テーマ）から希望する1つを選択して受講する。この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。</p>	
		<p>「大学と地域」テーマ：動物・畜産業                      鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス（7テーマ）から希望する1つを選択して受講する。この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。</p>	
		<p>「大学と地域」テーマ：環境                      鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス（7テーマ）から希望する1つを選択して受講する。この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。</p>	
		<p>「大学と地域」テーマ：ひとづくり                      鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス（7テーマ）から希望する1つを選択して受講する。この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。</p>	
		体育・健康科学理論	<p>大学において充実した生活を送り、さらに生涯にわたって豊かな人生を送るためには、身心の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義では、身心の基本的な機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な運動、栄養、休養のライフスタイルのあり方について学習する。                      授業内容としては、まず我が国の健康の状況の変遷を見る。これにより、現代日本人が共通に気をつけるべき健康問題を把握する。次にこのような健康問題への対処法を、主に運動、栄養、休養の観点から見ていく。                      授業では、時間ごとに内容に関わる資料を配布し、これとスライド教材を組み合わせて行う。</p>
体育・健康科学実習	<p>「体育・健康科学理論」で学習した身体の機能とその適応性や健康と運動の関係などを背景に、本実習では実習ノートをもとに、各自の身体能力について測定し、自己の形態や体力の現状を把握する。そして、具体的な健康づくりに適した運動を安全に実施するための方法を学ぶ。健康づくりの運動を行うための知識、技能、態度・習慣を身につけることができるように、課題レポートを提出する。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 教育 科目	初 年 次 教 育 科 目	情報活用	コンピュータやインターネットの発達・普及した現在の情報社会では、今後の学習や将来の仕事においてコンピュータが活かされる場面は少なくありません。そのため、コンピュータを上手に操作するための基本的技能、およびトラブルに巻き込まれないための情報セキュリティに関する事項を身に付け、その支援を適切に享受するための知識について学びます。授業では、タッチタイピング、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、電子メール、Webブラウザ等のソフトウェアを利用して、基礎的な情報活用法(書類作成、データ処理、情報交換、情報検索・収集など)についてパソコン実習(演習)を交えて説明します。このような実習と課題をこなして習得した能力を今後の学習に役立てられるようになることを目的とします。	
	グ ロ ー バ ル 教 育 科 目	英語 I A	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容(多様なものの見方、価値観、歴史の変遷、社会情勢、異文化に関する問題など)を理解し、考えを深める習慣を身につけ、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。前期のこの科目では、(1) 大学生としての自己発見と自己覚醒(Self-Discovery and Self-Awareness) [Stage 1] (2) 大学生としてのアイデンティティ構築(Self-Identity Development) [Stage 2] というプロセスを進めていく。	
		英語 I B	EGAPコースはELAコース同様、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。EGPAでは大学生での所属(学部、学科)を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を、英語学習を通して高めていく。前半にあたるこの科目では、最初から専門性に目を向けるのではなく、その周辺・関連領域にまず目を向け、広い視点から自分自身の所属(学部、学科)と専攻について考えていく学際的な視点を養う。「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に修得し、内容と論理性にすぐれたコミュニカティブな英語運用能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するリーディング(音読)、リスニング(シャドウイング)のスキルをEGPAコースで活用していく。	
		英語 II A	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容(多様なものの見方、価値観、歴史の変遷、社会情勢、異文化に関する問題など)を理解し、考えを深める習慣を身につけ、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。後期にあたるこの科目では、(2) 大学生としてのアイデンティティ構築(Self-Identity Development) [Stage 2] (継続) (3) 大学生としての自己省察と自己表現(Self-Reflection and Self-Description) [Stage 3] というプロセスを進めていく	
		英語 II B	EGAPでは大学生での所属(学部、学科)を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を英語学習を通して高めていく。後半にあたるこの科目では、自分が所属する学部、学科(専門分野)の科学技術面への関心を高める。前期の学習活動の継続・強化をめざし、「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に習得し、内容と論理性にすぐれたコミュニカティブな英語運用能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するリーディング(音読)、リスニング(シャドウイング)のスキルをEGAPコースで効果的に活用していく。高次の英語統合・活用能力を獲得し、実現できるようにする。	
		英語 III	ESAP Iは専門分野(学部、学科)の導入段階である、EGAPコース(基礎レベル)の流れをくむ。3年次以降の専門課程での学術知識・スキルの習得に向け、専門分野にフォーカスした英語使用を目指す。専門分野で個人的に関心があり、探究を深めたいテーマを自発的にリサーチし、その(1) 情報収集、(2) 要約、(3) 発信内容の構築、(4) 発信方法と、Reception (Reading, Listening) とProduction (Writing, Speaking) を統合的に活用する。英語による個人研究発表(Independent Study using English)を通して英語発信能力を確立していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	グローバル 教育 科目	英語IV ESAP IIは、専門分野(学部、学科)の導入段階である、EGAPコース(基礎レベル)の流れをくむ。3年次以降の学部・学科内での専門分野に特化した特定目的のための英語、すなわちESP(English for Specific Purposes)の学習に備え、科学技術分野にみられる学術論文等の論理構成、文章スタイル、語彙・語法の特徴などを理解し、読解能力(読解方略)を獲得する。あわせて学習の応用実践として、自身で興味のある関連テーマを専門分野の領域からリサーチし、英語の文献やネット上の情報など幅広い媒体を活用し、その内容理解(要約を含む)に努める(Reception)。読むだけでなく、音声情報も聴き取り、情報として活用する。	
	異文化理解入門	グローバルな時代に生きていることを改めて認識し、英語圏以外の多様な文化を理解し受容する態度、自文化をより深く知ろうとする姿勢、ものごとを複眼的に考察・判断できるような素地を涵養することを目的とする。なお、学部・学科によっては、初修外国語学習への動機付けも図る。  (オムニバス方式/全15回)  (建238 大野 克彦/3回) 1. ドイツ語圏のことばと文化(1) 2. ドイツ語圏のことばと文化(2) 3. ドイツ語圏のことばと文化(3) (建278 二村 淳子/3回) 4. フランス語圏のことばと文化(1) 5. フランス語圏のことばと文化(2) 6. フランス語圏のことばと文化(3) (建352 ダリア・ヒッシュャム/3回) 7. イスラーム圏のことばと文化(1) 8. イスラーム圏のことばと文化(2) 9. イスラーム圏のことばと文化(3) (建279 寺西 光輝/3回) 10. 中国語圏のことばと文化(1) 11. 中国語圏のことばと文化(2) 12. 中国語圏のことばと文化(3) (建252 鄭 芝淑/3回) 13. 韓国・朝鮮語圏のことばと文化(1) 14. 韓国・朝鮮語圏のことばと文化(2) 15. 韓国・朝鮮語圏のことばと文化(3)	オムニバス方式
日本語 ・ 日本 事情	日本語 I	目的: レポートや学術論文などの論説文を独力で読むために必要な基礎的読解力をつける事を目的とする。 内容: 論文を読むための基礎となる文章の構成に関する知識・文法事項、論旨の把握、レジュメ作成について学習する。 授業の方法: 教科書にそって文法知識、文章構造に識について学び、実際の文章の中で確認する。 講義のほか、読解内容をまとめてグループで発表する。また、表現、語彙の定着のためのペアワークを行う。	外国人留学生向け
	日本語 II	この授業では、大学の学業生活に必要な日本語の技能の中で、特に書く技能について学ぶ。具体的には、「レポート」の書き方(構成・表現等)について学び、豊富な練習と添削を通して技能の向上を目指す。毎回、レポート作成→添削→修正という流れで練習を行い、必ず宿題が出されるので、提出が遅れない様に注意すること。	外国人留学生向け
	日本語 III	この授業では大学の学業生活に必要な日本語の技能、特に話す技能を取り上げて練習する。具体的には「口頭発表の方法」について学び、練習する。口頭発表に必要な発表用レジュメの作り方、発表後の質疑応答で使う表現について学び、実際に一人ずつ口頭発表を行なう。また、わかりやすい発表のため、発音の指導も行う。毎時間、新聞記事の中に使われる語彙や表現についての漢字テストも行ない、語彙を増やす。	外国人留学生向け
	日本語 IV	この授業はこれまでに学習したレポートで使われる様々な表現を用いて、信頼性のある資料にもとづいた論証型レポートを作成することを目標とする。 授業では、テーマの設定から、資料の収集・精査、レポートのアウトライン、パラグラフ・ライティング、引用・図表の説明の仕方などを学びながら、3000字程度の論証型レポートを作成する。 授業では基本的にプリントを配布し、プリントに沿って行すが、日本語IIの教科書も参考書として利用する	外国人留学生向け

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	日本語・日本事情	日本事情A 目的 留学生が日本の大学、日本社会で円滑な学生生活を送り、自分の目標を達成できるように、日本語能力を強化し、日本理解を深め、基本的な自己発信ができることを目的としている。 内容 自然環境、文化とは何か? カルチャーショック理論、習慣とマナー、歴史入門、社会のキーワード文化のキーワード、留学史方法 講義、文献読解、討論、グループワーク、口頭発表などを行い、総合的な学習能力の強化を図る。	外国人留学生向け
		日本事情B 目的 文化とアイデンティティについて理解を深め、自己確立を促すことを目標とする。 内容 アイデンティティとは何か、集団、モラトリアム、職業、西洋と東洋、時代、表現、伝統などの諸相とアイデンティティの関係について学ぶ。 方法 読解、ディスカッション、ライティング、口頭発表を軸とする。	外国人留学生向け
教養 教育 科目	選択科目	「起業」ービジネスの発見と創出 目的：鹿児島大学は、「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに発展する知の拠点を形成し、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。地域社会からは、起業マインドを持つ人材の輩出が期待されている。本学では既に教職員や大学院学生および学部生から起業に挑戦する者も現れている。この機運をさらに高め、起業マインドを持つ人材の育成とその人材間・支援者間の交流ネットワーク形成を行うべく講義を開講する。社会情勢や「ヒト・モノ・カネ」の運用や流れを起業の観点から知ることで、日常生活の諸現象を複眼的な視点で理解できる。そのため、人間力の涵養にも資するものになる。 講義内容・方法：起業を取り巻く環境や社会・経済情勢を学び、チャレンジ精神（進取の精神）の実践として、ビジネスアイデアを共同で言語化する作業を行う。講義の前半は座学形式を主とし、後半はアクティブラーニングを志向したワークショップ形式とする。	
	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	How Language and Music Influences Society This course is an introduction to Sociolinguistics. In this course, you will be introduced to the basic concepts of Sociolinguistics, and have the opportunity to study how language use influences certain aspects of society, including cultural norms, expectations, and context. In addition to this, we will look at how this is coupled with the influences of both classical and modern music on society. The two areas of study we will focus on will be 19th century Romanticism and the 1980s.  この科目は、社会言語学への導入である。この科目では、あなたは社会言語学の基本的な概念へ導入されるとともに、言語使用が、文化的規範、期待及び状況を含む社会のある側面にいかに影響を与えるかを学ぶ機会を持つ。これに加えて、これがクラシック及び現代音楽の両者の社会への影響にいかに関連しているかを考える。我々が焦点を置く2つの研究領域は、19世紀の浪漫主義と1980年代音楽である。	
		アイデア・発明から特許へ オープンイノベーションが重視される現代では、知的財産を核とした産業界、大学、行政の連携も積極的に進められており、技術系、事務系を問わず、現代社会で活動する者にとって知的財産についての素養は必須と考えられています。そこで、主に以下の事項について、講義及び実習により、知っておきたい知的財産全般についての知識の習得を図ります。 (1)特許権、意匠権、商標権、著作権、育成者権、不正競争防止法など知的財産権についての基礎を学ぶ。 (2)新聞等で話題になった具体的事例をとおして、知的財産権の役割、意味について考える。 (3)アイデアの抽出法、特許検索法を実習を通じて習得する	
		アメーバ経営 授業目的：この講義の目的はアメーバ経営の基本デザインと導入状況を理解することにある。 授業内容：京セラ（株）は創業以来一度も赤字を出したことなく、成長性と収益性を両立してきた。その理由の一つは「アメーバ経営」にあると言われている。この講義は、主に管理会計の観点から、アメーバ経営を解説する。一方、広義のアメーバ経営は、管理会計的要素、組織的要素、稲盛フィロソフィーを含み、三者が相互補完的に機能を発揮する。アメーバ経営を包括的に理解してもらうために、必要に応じて組織論（組織構造や組織文化）の内容も含む。また、アメーバ経営は、京セラグループだけではなく、多くの日本企業や海外企業にも導入されている。これらの企業へのアメーバ経営の導入状況を理解してもらうために、導入の概要や事例を講義内容に含む。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (人文・社会科学分野)	大人になるための政治学	本授業は、「社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力」を養成するために、大人（≒市民）として必要な、最低限の政治に関する知識と、それらを科学的に考察し判断するための方法を習得してもらうことを目標とする。 授業内容は、私たちの生活に立ち現れるさまざまな問題が政治と密接に関わっていることに気づくことにはじまり、社会科学的視座より問題への理解を深める。そして、現在の問題へとつながる歴史や分析枠組みを知ることで、その原因や将来的展望について学習することを目指す。 授業ではしばしば、下記テーマの他に時事問題について議論する。日々のニュースや社会的課題について常に目を配ることを勧める。また予習復習のためにEラーニングシステムを多用する。	
	韓国語入門Ⅱ	この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることを目的とする。 授業内容としては、ハングル（韓国文字）の創字原理を理解しその読み書きに習熟すると共に、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。 教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。	
	キャリア・恋人・コミュニケーションの社会学	1. メディア、大人、友達のうわさ、SNS、などにたいして、批判的になる。(批判的思考力) 2. 自分の人生を、現実即して、計画できる。それに即して行動する。(計画的行動力) 3. スマホだけでなく、PCをはじめとする、社会人メディアを使いこなせる。(社会人情報リテラシー) 4. 自分の意見をまとめ、さらに、それに対する反論を想定できるようになる。(自立的思考力) 5. 大人や異性にはなしかけることができるようになる。(成人的コミュニケーション能力)	
	グローバル人材育成(雲南)	中国・雲南農業大学(雲南省)及び華中農業大学(湖北省)を訪問し鹿児島とは異なる環境の中に身を置いて、日本とアジアとの関連を考えるものである。技術的課題としては、茶、花卉、タバコ、ジャガイモ、畜産物、カンキツなどの農産物を生産する両省は、鹿児島県と似た農業環境を有することから、現地訪問を通じて鹿児島の農業との比較を行う適地である。特に、茶については、歴史的流通路である茶街道(茶馬古道)を学び、茶市場訪問、茶道体験を行い、また、花卉について、世界最大規模の花弁卸売市場訪問し、さらには、中国のカンキツの研究拠点を視察して理解を深める。さらに、本学と協定関係にある両農業大学において、鹿児島大学友好大使や連大を卒業した両校の教員から農業および少数民族などに関する講義を受け、農業および両省の社会的背景について学習する。	共同・集中
	現代企業経営論	第1は、受講生が経営学を理解することである。経営学理論の基礎を理解することはもちろん、経営学の本質を探究する態度を求める。 第2は、受講生が経営学を実践することである。経営学は極めて実学的な性格が強く、したがって理解するとともに実践することが求められる。	
	コーポレート・ファイナンス	講義では、コーポレートファイナンス(企業財務)の理論と実践を学ぶ。前半は価値について、後半はリスクとリターンについて学ぶ。さらに、講義で学んだ理論を全員参加の形で実践する。具体的には、マイナス金利下の日本国債の理論価値(現在価値)、不動産・リートの理論価値、住宅ローンの理論価値、株式(東京瓦斯・九州電力・東芝・日立・スルガ銀行)の理論株価を求める。講義では日経新聞の記事などを用いながら、コーポレートファイナンスの基礎知識を楽しく勉強できるように工夫する。	
	こころと「多様な生き方」を学ぶ	本授業の目的は、これまで「あたりまえのこと」と思ってきた価値観や事象を問い直してみることである。本講義では、セクシュアリティとHIV/AIDSを切り口に現代社会が抱える心理的諸問題について理解を深め、多様な生き方を認め合う対人関係のありかたについて議論する。 授業の方法は、基本的には講義形式で行うが、ゲストスピークを通してトピックについて具体的なイメージを持ってもらうことも予定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目  教養 教育 科目  教養 基礎 科目 (人文・ 社会 科学 分野)	選 択 科 目  災害と考古学	日本列島では様々な災害が起こる。特に鹿児島県は、旧石器時代から現代に至るまで、数多くの災害を乗り越えてきた場所である。本講義では、「災害と復興の考古学」をテーマとして、過去の災害痕跡の認識方法や被災状況、復興過程を把握する考古学的手法や隣接学問分野との連携状況を理解することを目的とする。さらに、考古学の調査成果を今後の防災対策や災害予測に活用する方法を考える。	
	自己理解の心理学	私たちは、自分のことは自分が一番よく理解していると思いがちですが、必ずしもそうではないこともあります。自分を客観的な視点で理解することは、自分のみならず、他者を多角的に理解することにもつながります。この授業では、みなさんに複数の心理テストを体験していただき、その意味について考えたり理解を深めたりすることを通じて、「自分」というものを客観的にとらえる方法を考えていきます。講義による解説も並行して行います。 原則として、各回の授業では、心理テストなどの作業を行なったのち、数人で内容や結果についてディスカッションを行います(30分前後)。その後、結果の解説を含めた講義というスタイルをとります。	
	自然学校へ行こう 実践編Ⅰ	「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に行き活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地または全国各地の自然学校において、参加・体験活動(原則として7日間以上)を行うものである。なお、本授業を経てさらに深く実践的に学びたい学生は、「自然学校インターンシップ」を受講することができる。 1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 2. 授業の内容は、各地の自然学校(教員が紹介します)へ行き、活動に参加すること。 3. 授業の方法は、7日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成および発表による。	集中
	自然学校へ行こう 実践編Ⅱ	「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に行き活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校において、体験活動(原則として7日間以上)を行うものである。 1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 2. 授業の内容は、各地の自然学校(教員が紹介します)へ行き、活動に参加すること。 3. 授業の方法は、7日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成による。	集中
	書物に見る日本近代 文学	この授業では、日本近代文学の学習のために不可欠であるところの、書物に関する理解と調査方法を身につけることを目的とする。授業内容としては、近代における書物の流通について学ぶとともに、流通がどのように文学作品の成立に関わったのかを理解する。授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
	心理学入門	本講義では、心理学の基礎的な内容について理解するために、認知、発達、感情、社会、さらには脳、進化、心の病気などについて、様々なトピックを取り上げて講義を行う。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、次の授業でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。また、実感の伴った理解を促すために、実験デモや動画視聴を適宜取り入れながら講義を行う。	
	タイ文化研究入門	この授業の目的は、日本とも関係の深いタイ社会のさまざまな側面を、主に文化的な事象を通じて学ぶことである。それは単に特定の国や地域についての知識を得るためになされるのではなく、そこで得られたものを自分自身に引きつけて考え、国際社会に生きる人間としての自覚と想像力を養うためになされる。各回ごとに異なるテーマ・事象について講義を行う。また、毎週、簡単なタイ語講座も実施する予定。毎週担当者を決め、教科書の担当範囲の簡単なまとめを作成し、授業冒頭で発表してもらう。	
	中国語入門Ⅱ	基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、読む、書く、話す、聞くというコミュニケーションの基礎的能力の涵養に努める。さらに、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につけていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (人文・社会科学分野)	独語入門Ⅱ	この授業は、昨年度後期の「独語入門?」に続き、ドイツ語の基本的な語彙と文法を学習しながら、日常生活でいられる会話表現を学び、習得することを目的とする。折に触れてドイツの社会・文化に関する話題を提供する。授業では元氣よく声を出して音読を繰り返す、ドイツ語の音とリズムを体得することを特に重視する。	
	仏語入門Ⅱ	この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身につけ、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 基本的な知識を習得するための入門授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。基本的には教科書に沿って授業を行うが、視聴覚資料、会話練習も取り入れる。練習問題をこなすことによって理解を深める。	
	医学・行動心理学入門	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。授業の内容は、同じ日に同じ教室で開講される実験医学・行動心理学を受講するに当たって必要な基礎知識である。合計4単位が取得できる。授業の方法は、教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。	共同・集中
	稲盛和夫のベンチャー企業論	この授業の目的は、将来、起業または企業経営を目指す学生に、どのようにして会社を運営し成長させていくか、企業経営に必要なマインド及び会社経営の考え方について、基礎的な理解を図ることである。本講義では本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問）と盛和塾（稲盛氏に学ぶ経営塾）の塾生との問答録をテキストとして使用する。授業内容としては、稲盛和夫氏の経営観を学習するとともに、企業経営を超えた基本的な人間観についても学習する。  (オムニバス方式／全15回)  (建259 吉田 健一／5回) 1. オリエンテーション、活力ある社風をつくる 2. 活力ある社風をつくる 3. 活力ある社風をつくる 4. 社員のやる気を引き出す 5. 社員のやる気を引き出す (建316 牧原 千尋／5回) 6. 幹部を育てる 7. 幹部を育てる 8. 自らを高める 9. 自らを高める 10. リーダーの役割一〇カ条 (建283 劉 美玲／5回) 11. 高収益の基盤を築く 12. 高収益の基盤を築く 13. 高収益の基盤を築く 14. 挑戦し続ける企業を目指す 15. 挑戦し続ける企業を目指す	オムニバス方式
	稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	1. 授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏を思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。 2. 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。 3. 授業の方法は、毎時間、『京セラフィロソフィ』を担当者が解説し、受講生にはフィードバックシートを提出して頂く。次の時間にフィードバックシートの代表的な意見を紹介し双方向性を高めた講義を行う。	



授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 教育 科目	教養 教育 科目 選 択 科 目 教養 基 礎 科 目 (人文・ 社会 科学 分野)	稲盛和夫の経営哲学 (Ⅱ)	1. 授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。 2. 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。 3. 授業の方法は、毎時間、『京セラフィロソフィ』を担当者が解説し、受講生にはフィードバックシートを提出して頂く。次の時間にフィードバックシートの代表的な意見を紹介し双方向性を高めた講義を行う。	
		株式会社と会計	現代社会では、企業は財やサービスの生産・供給だけでなく、雇用や地域活動などさまざまなシチュエーションでわれわれの生活を支えている。会計(企業会計)は「事業の言語」と言われ、こうした企業の活動を理解するために重要な役割を果たしている。とりわけ有価証券報告書は企業の情報開示の中核を担う。本講義では、会計制度の基礎的な概念を理解することを通じて、有価証券報告書を情報源として使いこなすことができるようになることを目的とする。	
		韓国語入門Ⅰ	この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることを目的とする。 授業内容としては、ハングル(韓国文字)の創字原理を理解しその読み書きに習熟すると共に、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。 教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする	
		狂言の世界	狂言は、中世に能と能の間に挟まれる形で上演された、滑稽をむねとする伝統芸能である。芸術性という点では見貴分にあたる能には及ばないにしても、年齢や国籍を問わず親しまれているのは何といても狂言の方である。最近では狂言尽くしと言って狂言だけが独立して演じられることも多い。本講では、人文科学の入門編としてこの狂言を取り上げ、その歴史や構造等を概観しつつ、ビデオ鑑賞を通して日本の伝統芸能に親しませる。 なお、原則として毎回ビデオ鑑賞(付、感想文)を行なう。	
		現代の日本政治	授業の目的は、我が国の戦後政治史の知識を得た上で、今日的課題への理解を深めることである。 2. 授業の内容は、大きく2期に分かれる。1回目「はじめにー政治とは?」から7回目「利益団体・社会集団・ネットワーク」までは、基本的な知識を伝授する。8回目から15回目までは、戦後の我が国の政治史を、主要政党の歴史に焦点を当てて概観する。本講義は「現代の日本政治」であるが、現在起こっている事の時事解説を直接的に行うものではない。現在起こっていることへの理解を深めるためにはある程度、歴史的な視点が必要であるという観点から、本講義では、前半では、政治を見る際の視点に触れた、後半では、我が国の現代政治について学ぶ。 3. 授業の方法は、配付したオリジナルテキストを使いながら解説して行くが、随時、補足資料も配付する。	
		現代社会を考える	日本をはじめ、現代の社会は変革期にあります。この講義はこのような社会の変化を社会学の観点からいくつかのキーワードによって理解することで、社会的な視野や判断力、探求能力の涵養します。講義では配付資料をもとに現代社会を考える基本的枠組みを紹介し、現代日本社会の変化について考えてゆきます。また、理解を深めるために適宜、新聞資料やビデオ資料などを使用します。授業の準備としては、常に時事的な出来事に関心を払う必要があります。また、各回の内容に即して簡単な情報収集を指示することもあります。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目 教養 教育 科目 教養 基礎 科目 (人文・ 社会 科学 分野)	古代東アジアの王陵	目的： 1. 大型墳墓を素材として古代東アジアの遺跡・考古学研究の知識を得る。 2. 東アジアの墳墓遺跡と国家形成の考古学研究について概要を理解する。 3. 遺跡資料から歴史を復原する。 内容： 日本列島の古代、西暦3～6世紀には権力者のための墓として巨大な前方後円墳を造る社会が存在した。この前方後円墳はどういった存在だったのかを解説する。日本古代の古墳時代を同時代の東アジア社会と比較する。人類史的に巨大なモニュメントにはどのような意味があったのかを考える。それには王墓の構造や副葬品の考古学研究で明らかにされつつある成果を紹介する。 方法：スライドを中心とした講義	
	行動科学	授業の目的： 生きているヒト・動物の行動について理解と関心を持つこと。 授業の内容： ヒト・動物の持つ環境への適応行動やメカニズムを学ぶこと。 授業の方法： 具体的な行動の例を視覚的な材料を用いてわかりやすく解説。	
	自然学校へ行こう	自然体験や暮らしの体験を通じた教育活動をベースにしながら、地域の資源を活かし、新たな価値を創造し、ソーシャルビジネスを興していくことで持続可能な農山漁村社会をつくっていく一連の活動や組織を「自然学校」と呼ぶ。豊かで持続的な未来社会を創造するための新しい方法として、注目され始めている「仕事」である。この授業では、そんな自然学校の世界を知ってもらうことを目的に、九州各地で活動する自然学校の経営者たちを迎えて、そこでの取組と熱い想いを語ってもらう。 1. 授業の目的は、自然学校について知り、将来の仕事を考えるきっかけとすること。 2. 授業の内容は、自然学校経営者の話を聴くこと。 3. 授業の方法は、毎回の講義とその感想レポートによる。  (オムニバス方式／全15回)  (建207 井倉 洋二／14回) オリエンテーション、授業概要、自然学校とは何か、持続可能な地域づくりの拠点としての自然学校について講義を行う (建237 福満 博隆／1回) 自然体験活動の拠点としての自然学校について講義を行う	オムニバス方式
	鹿児島県の歴史地理	歴史地理学は、過去の地域における自然・人文に関する諸事象に注目して、地域の仕組みとその特性を明らかにするものである。本講義では、身近な地域である鹿児島県・鹿児島市を対象に、歴史地理学の手法を用いて地域の成り立ちや日本における鹿児島の地域的特性を考える。また、現在の地域との比較を念頭に、地域の地理的諸変化もみていく	
	鹿児島探訪 ー歴史ー	現在の鹿児島県域における古代から近世にかけての歴史的展開を、史・資料を読み解きながら講義形式で概観する。今日、常識とされていることでも、歴史的由来をたずねると案外その根拠が乏しいことが多い。 (1) 虚心坦懐に史料から先人の残したメッセージを読み取ることが出来る。 (2) 鹿児島の歴史的歩みを理解する。 (3) 現代の諸問題に対応する能力を身につけることが出来る。	
	実験医学・行動心理学	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。実験を通じて、本を読んだだけではわかり難い医学・心理学の最先端の知識を具体的なイメージを伴って体得する。実験内容は、答えが予想できる実習形式のものから始め、最先端の未知の領域にも挑戦する。授業の方法は、各自が選択した課題を解決のための実験の遂行である	共同 集中

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	教養 教育 科目 選 択 科 目 教 養 基 礎 科 目 (人文・ 社会 科学 分野)	社会学の世界	社会学とは、「個人と社会」という視点から「自明性の剥奪」という研究姿勢をつうじて、日常世界を構成するさまざまな現象にアプローチしようとする学問である。 本講義では、「コミュニケーション」就中「社会的コミュニケーション」という現象をテーマに取り上げ、まずその自明性と問題点を指摘し、次いでその問題点を克服しようとするコミュニケーション観及び人間観を社会学の観点から考察し、最後にそのコミュニケーション観に立脚したコミュニケーション理論を、「シンボリック相互作用論」(Symbolic Interactionism)の視座と方法を用いて構築する。
		心理学概論	初めて「心理学」を学ぶ学生を対象に「心理学」に関するさまざまな知見を紹介していきます。その上で、人間とはどんな存在かについて考えたり、対人関係や社会事象を多面的に見る視点を持つたりしてもらうことや、自分や他者、社会に関心を持って関わる態度を形成してもらうことを目指します。各回の授業では、最初に、性格テストなどの簡単な作業を行ってもらい、数人で結果についてディスカッションをしてもらいます
		進化・文化と心理学	本講義では、人類に共通する普遍的な心理と、文化によって多様な心理について理解し、人間と社会について科学的に考察するための基礎を学びます。まず、人類に共通する人間性について、恋愛・結婚・子育てなど身近な話題に焦点をあてて講義します。それを踏まえた上で、さまざまな文化における多様な慣習や心理を紹介し、それらの違いが何故生じたのかを考察していきます。 講義後には、短い意見・感想を書いてもらい、次回の冒頭で返答することで、双方向的な講義を目指します。また、動画視聴や心理学の実験デモを毎回のように行い、実感の伴った理解を促します。なお、本講義の表のテーマは、「人類の進化と文化を知る」ことですが、裏のテーマは「多様な視点を持つ、自らの視点を超える」ことです。講義では、「多様な視点」とは具体的にどうということなのか、その視点をどう生かしていくのかについて、考えを深めてもらえるよう工夫します。
		世界の中のイスラーム	本講義では、イスラームに関する基礎的な知識を身につけ、現代世界で起きている西洋世界とイスラーム世界との間の様々な事件や問題について考察することを通して、現代の国際社会で起きている問題解決のためには何が必要であるのかについて深く考えることを目標としている。西洋側からだけ見た一面的な見方によって物事を理解するのではなく、多面的な視点を持って、もう一度国際問題について考え直すきっかけにしたい。

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目 目  教 養 教 育 科 目  教 養 基 礎 科 目 (人文・ 社会 科学 分野)	西洋史入門	ヨーロッパやアメリカの歴史に関する諸問題について、単なる政治的な事件の羅列や概説ではなく、できるだけ身近で具体的な視点から考え、理解することを目的とします。2人の教員のリレー形式で行います。  (オムニバス方式/全15回)  (建48 藤内 哲也/7回) 1回:イントロダクションー史料を読む面白さー 2回:ぜいたくは禁止 3回:家族と結婚 4回:契約社会 5回:都市の環境と衛生 6回:祭りと娯楽 7回:文化と芸術  (建37 細川 道久/8回) 8回:イントロダクション(細川) 9回:万博を通して時代を読む(1) ーロンドン万博とヴィクトリア期イギリス社会ーその1 10回:万博を通して時代を読む(2) ーロンドン万博とヴィクトリア期イギリス社会ーその2 11回:万博を通して時代を読む(3) ーロンドン万博とヴィクトリア期イギリス社会ーその3 12回:万博を通して時代を読む(4) ーイギリス社会の価値観ー 13回:万博を通して時代を読む(5) ー万博が映し出す世界(ヨーロッパとアジア、近代と現代)ーその1 14回:万博を通して時代を読む(6) ー万博が映し出す世界(ヨーロッパとアジア、近代と現代)ーその2 15回:万博を通して時代を読む(7) ー万博が映し出す世界(ヨーロッパとアジア、近代と現代)ーその3	オムニバス方式
	税と法律	税金と世の中にある法律の要点について初歩的な知識を講義する。 1. 授業の目的は、社会人としての「常識」を理解する。 2. 授業の内容は、法律と税金の初歩的知識を解説する。 3. 授業の方法は、学生からのフィードバック(感想文提出)を紹介しながら、新規項目の解説を行う。	
	戦後日本外交史	1. 授業の目的は、戦後の我が国の外交史について、まずは、基本的な知識を身につけることである。そのために、担当者(吉田)は出来るだけ、中立の立場で講義を心がけるつもりである。採用する教科書もオーソドックスなものである。また、講義内容がある立場からだけの見解に偏らないように、採用する教科書以外の参考書の知見も講義で紹介する。知識を身につけることと、自身の意見、見識を持つことの両方を目的とする。 2. 授業の内容は、指定したテキストを解説するが、その際、受講生は事前にテキストを一読してきていることを前提に、テキストに記述していない細かなエピソードなども解説する。その上での担当者の個人的な問題意識をも講義で述べる。内容は1945(昭和20)年から今日(2017年)に至るまでの日本外交を多面的な視点から概観するものである。 3. 授業の方法は指定したテキストを使いながら解説して行くが、予め配付する要約資料も活用する。	
	大学の日本史	高校までの日本史の教科書で取り上げられていた内容はあくまで、これまでに積み重ねられてきた日本史研究の成果の一部であり、その研究は今現在も様々な研究テーマに基づいて続けられている。この講義では、そうした日々進展する学問としての日本史について、受講者各自が理解するとともにそれについて考察することを目的とする。担当教員の専攻にしたがって、日本史研究の現状と課題を、主に中世における公家と武士の関係にそくして講義する	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	教養 教育 科目 選 択 科 目 教養 基 礎 科 目 (人文・ 社会 科学 分野)	中国と東アジア世界	私たちは一口に中国というが、そこには様々な文化・地域が含まれている。そのことは、中国語といっても、それは北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には様々なバリエーションがあることに示されている。現在の中国はそのような地域が分裂・統合されるなかで生まれ、さらに、その中国における歴史展開は日本・朝鮮半島を含む東アジア世界のそれと密接に結びついてきた。本講義では、中国古代の歴史を通じて、その統合がどのようにして達成されたのか、また、古代中国が世界帝国へととなえたのは何故か、などの点について中国社会的特質を踏まえながら講義していく。
		中国語入門 I	基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、中国語の発音と初歩的文法の習熟を目指します。発音の基礎や挨拶の表現から始めて、読む、書く、話す、聞くというコミュニケーションの基礎的能力の涵養に努める。さらに、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につけていく
		著作権とビジネスコンプライアンス	近年、著作権問題が世界的に注目を浴びるなか、一般の学生も社会の一員として法規を遵守し、また自らの身を守る上でも、著作権制度を理解しておくことが強く求められる。この講義では、著作権制度に関しての法律の理解を基礎とし、著作権の権利の発生から消滅までの権利の一生の解説を行う。さらに、著作権保護に関連の深い、ゲームソフト、アニメーション、映画等のメディア産業の全体像を俯瞰し、そこで扱われる知的財産を総合的に把握しつつ権利化と管理および事業遂行に必要な知識とスキル習得を目指す。併せて、企業間における不正な行為を禁止する法律である不正競争防止法等に関しても解説を行う。
		貞観政要を読むー帝王学入門ー	この授業の目的は、古来、帝王学の教科書ともいわれた『貞観政要』を読むことにより、組織のリーダーに必要な資質及リーダーを支える人間に必要な資質について考え、理解を深めることである。『貞観政要』とは「貞観の治」(627年～649年)とよばれている中国史上、最も平和な治世を実現した唐の太宗皇帝(李世民：598～649)と名臣たちの政治問答集である。『貞観政要』は中国のみならず、日本においても北条政子や徳川家康、近くは明治天皇などに読まれてきた書物であり、組織の上に立つものにとって必要なことが説かれている。また、この書は、リーダーは如何にあるべきかということのみならず、リーダーを支える側近が如何にリーダーに諫言を行うか、人材の登用を如何に行うか、後継者はどのように育成すべきかなどについても論じられている。帝王学という言葉は、たまに聞く言葉であっても、正確に理解されていない言葉でもある。また、社会では誤解されている面もある。本講義で、その誤解を正すことも含め、本当にリーダーに必要な資質について考え、理解を深めるため実際の『貞観政要』をテキストとして使用する。
		唐代の文学	授業の目的は、中国の古典詩の精密な読解とより深い理解を目的とする。授業の内容は、唐代の詩を取り上げる。授業の方法は、唐代の詩を唐代の社会状況との関連の中で読み解くことで、中国古典詩の世界文学における意義を理解する。
		独語入門 I	ドイツ語の文法・語彙に関する知識の習得とそれに基づくコミュニケーション能力の育成が授業の目標です。折に触れて、ドイツ語圏の地理・文化・社会・暮らし等の情報も提供していきます。授業は配布資料等による講義、課題発表等を組み合わせた形式で行います。

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目 目  教 養 教 育 科 目 目  教 養 基 礎 科 目 (人文・ 社会 科学 分 野)	日本の焼き物	日本における焼物の歴史を、先史時代から近代まで通観する。 (1)焼き物とは何か (2)焼き物の製作技術 (3)野焼きの時代 (4)須恵器の登場 (5)奈良三彩の出現 (6)古代中世の焼き物 (7)貿易陶磁と日本 (8)茶の湯と陶磁器 (9)日本の磁器の始まり (10)肥前磁器の海外輸出とヨーロッパ陶磁器 (11)鍋島藩窯 (12)近世薩摩焼の展開(1) (13)近世薩摩焼の展開(2) (14)近代化と日本陶磁 (15)まとめ-日本の焼き物の特質-	
	日本国憲法	日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について、基礎的な知識を獲得すると共にその知識をもとに課題を解決することができるようになることをめざす。他者と協力して学習すること、その成果を授業内で発表し討論することを中心とする。また、憲法に関する基本的な知識については、予習段階で多様な参考文献を参照しつつ独習することが求められる	
	美術への誘い	1. 授業の目的は、絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術理論及び美術史・美術教育学の6分野における基礎的な知識・技能の習得し、美術への興味・関心を獲得することである。 2. 授業の内容は、美術作品の制作過程・技法・背景、歴史、教育等、6分野の基礎的な箇所を取り扱う。 3. 授業の方法は、6分野を2-3コマごとにオムニバス形式で行うものである  (オムニバス方式/全15回)  (建58 桶田 洋明/3回) 絵画「絵の見方・感じ方」 (建53 池川 直/3回) 彫塑「彫刻について」 (建185 和田 七洋/3回) デザイン「デザインとは何か」 (建186 清水 香/3回) 工芸「やきものの魅力」 (建55 小江 和樹/3回) 美術教育学「美術教育における教材」	オムニバス方式 ・集中
	仏語入門 I	この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身につけ、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 基本的な知識を習得するための入門授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。一年間継続すると仏語検定5級以上の実力が身につく。 基本的には教科書に沿って授業を行うが、視聴覚資料、会話練習も取り入れる。練習問題をこなすことによって理解を深める	
	暮らしから試みる ニュース	日々の身近な事象から社会のありようを考える。社会のなかで成り立っているようにみえるルール、伝統、生活の知恵などを理解し確認し、疑問ももつことで、社会の中で生きる知恵、自分なりの判断力を高めたい。毎回、例示する事象をともに考えながら、授業の最後に感想レポートを書いてもらう。要約する力を含めた表現力もつけてもらう。期末レポートでは自ら見つけた事象を写真撮影とともに取材し、一般化、ニュース化してもらう。	
	簿記入門	会計は事業の言語と言われ、ビジネスにおいて、英語とともに重要視されている。簿記の基本知識は、企業活動や経営を理解するため、業種・職種を問わずすべての企業人に必要とされている。本講義は簿記の基本知識について学ぶ。日商簿記初級レベルの知識の習得を目標とし、演習問題に取り組みながら進めていく。適宜小テストを実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (人文・社会科学分野)	陽明学入門	<p>授業の目的は、『伝習録』に見られる王陽明の言葉により忠実にあたり、陽明学の本質を掴むことである。今日、「陽明学」と呼ばれる新儒学思想体系は王陽明の思想を指すが、一番肝心なのは、王陽明が人間の「心」というものをどう捉えていたかである。陽明学はしばしば、「革命の哲学」や「反抗の哲学」、「行動の哲学」という解釈がなされるが、それは正しくない。陽明学は社会思想でもなければ、革命哲学、行動の哲学でもない。ましてや支配者の論理(帝王学)でもなければ、逆に労働者解放の論理でもない。このことを正確に理解すること。</p> <p>授業の内容は、儒学の歴史について概観した後、宋の朱熹と陸象山にみる「心」に対する考え方の違いを確認し、王陽明の思想をみて行く。まず朱子学について解説し、その後、王陽明の生涯を解説し、陽明学の主要概念を解説する。その際、朱子学との違いを意識しつつ、儒学全体の中での陽明学の位置づけを解説する。</p>	
	市民として生きる知恵	<p>この授業の目的は、市民として生活する上で必要となる知恵について学び、市民として行動する力を涵養することである。</p> <p>授業内容としては、(1)市民として生活する上で必要となる情報を獲得するための手段とその具体的な方法について学び、(2)消費者問題に関する基礎的な知識とその対処法や解決法を学び、(3)労働問題やワークルールに関する基礎的な知識を学ぶと共に使用者・労働者として労働問題の解決法を学び、(4)主権者として政治や社会の運営に関わる基礎的な知識と具体的な方法を学ぶこととする。</p> <p>授業方法は、(a)新聞を活用して社会生活に関わる知識を広く獲得すると共に、(b)市民として生活する上で生じる様々な社会的課題の現状とその解決法について討議し、(c)大学内外のリソースを活用しつつ市民として生きる知恵と行動力を獲得するための提案を主体的に行うこととする。</p>	
	倫理学入門	<p>倫理学の基本的な考え方を講義する。学修目標は、倫理学の基本的な考え方を理解すること。</p> <p>授業計画は、倫理学とは(問い)から、幸福、義務、徳、道徳判断、道徳、自己と他者、個人と社会、正義、自由、平等、医療、環境、ビジネス、倫理学とは(答え)としている。</p>	
教養基礎科目 (自然科学分野)	DNAの科学	<p>この講義では、一年生の皆さんがグループに別れ、生命科学分野で興味ある、あるいはこれから重要なるであろう話題をテーマとして自ら選択し、調査研究を行います。その過程で、確立した事項については図書館を、最新の情報についてはインターネットを活用します。最後に、その成果を発表し互いに議論します。なお、科学的プレゼンテーションについて経験のない者でもスムーズに最終発表会に進めるよう中間発表会を設けています。この中間発表会での自身の発表を自己評価し、さらには第三者による評価を受けることで、自分自身の発表を見つめ直す機会を提供し、より良い最終発表会を目指します。</p> <p>我々は、様々な形で科学技術の恩恵を受け、あるいは受けようとしていますが、科学が単なる技術として応用される時、恩恵だけでなく予想もしていなかった問題を引き起こしたり、社会に議論を巻き起こすことがあります。この講義では、単なる科学技術の調査にとどめることなく、特に技術と社会との関わりについても新聞記事データベースを検索して様々な意見があることを知り、自分自身の考えを深化させることも期待しています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目 教養 教育 科目 教養 基礎 科目 (自然 科学 分野)	宇宙のすがた	<p>現代科学が明らかにした宇宙の姿を知ること、宇宙における地球人という意識を持つための素地となる認識を持つことを目的とする。</p> <p>現在理解されている宇宙の姿について、全体を概観した上で、地球近傍から順次遠方へと話題を進め、それぞれのスケールでの現代の宇宙観を示すとともに、それらの知見がどのようにして得られたのかについても言及する。</p> <p>授業形式：パワーポイント等を用いた視覚教材と口頭による解説を組み合わせで行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(建64 半田 利弘／8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>目で見て感じる宇宙の広がり</li> <li>太陽系の惑星とその仲間</li> <li>真空じゃない宇宙</li> <li>天の川の正体</li> <li>読めない名前の“いて座A*”</li> <li>どこにでも顔を出す暗黒物質</li> <li>ビッグバンは宇宙で起こった大爆発じゃない!?</li> <li>宇宙人はどこにいる?</li> </ol> <p>(建194 中西 裕之／7回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>月・太陽の見かけの運動と暦</li> <li>天文観測による物理学の発展</li> <li>太陽の物理</li> <li>星の最期</li> <li>天体の距離の測定方法 (VERA等)</li> <li>様々な銀河たち</li> <li>宇宙の大規模構造</li> </ol>	オムニバス方式
	家畜の歴史	<p>私たちの生活に欠かせない家畜たち。その起源のほとんどはアジアの国々にある。そして、今でも世界中では、様々な形で家畜と人が共存して生活している。この授業では、それらの家畜たちがどのようにして作り出され、今の時代まで受け継がれてきたのかについて考えながら、動物の生体内に起こった変化や遺伝についての知識を得る。</p>	
	情報セキュリティ入門	<p>IT (情報技術) は情報通信とともに産業や政府活動、そして私たちの生活を支える重要な社会基盤です。しかし一方でIT基盤を脅かす脅威が存在することも事実です。この脅威は私たちの経済活動や社会活動そのものへの脅威に転化します。これからの社会では高度情報化社会の恩恵を享受するために情報セキュリティへの取り組みが強く求められています。</p> <p>この授業の目的は社会生活で必ず関わりを持つであろうコンピュータやネットワークを使用する参加者を対象に情報セキュリティについての基本を身につけ情報セキュリティ確保の為に思考と行動の様式を身に付けることができるよう分かりやすく解説します。授業は教科書とスライド資料等による講義とミニレポート、小テスト (3回) を組み合わせた形式で行います。</p>	
	生物学入門	<p>近年、急速な発展を遂げている生物学を基礎とした科学技術は、新聞やニュースで取り上げられない日は無いといっても良いくらい私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。この授業では、生物学の基本となる事象から現在ホットな研究トピックスを紹介し、教養としての生物学を体系的に身につけることを目的とする。授業内容としては、高校レベルの生物を復習しながら、現在行われている関連した最先端の研究内容を紹介する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	動物の感覚・脳・行動	オムニバス方式
	教養 基礎 科目 (自然 科学 分野)	動物には多種多様な行動が観察され、これを統合する脳や神経のメカニズムは動物の進化の過程で環境に適応しつつ発達してきた。動物の感覚、脳、行動に関する科学は、20世紀に入って分析手法が確立され、比較的最近になって発展した研究分野である。本授業では、この分野の様々な研究領域から最新の研究成果について紹介するとともに、動物の行動に関して多角的な観点から考察を行う。 本授業は、動物の行動と、その発現システムについて理解することを通して、生体メカニズムや進化など、生物学の基本となる考え方を修得することを目的とする。さらに、行動科学の視点から人間の行動について考えることにより、わたしたち「ヒト」という生物や人間社会について理解することも目的の一つである。授業はオムニバス形式で行い、動物の行動科学分野において第一線で研究をすすめる講師がそれぞれの専門分野における研究成果を紹介する。  (オムニバス方式/全15回)  (建247 藤田 志歩/1回) 1. オリエンテーション～行動の機能、適応、進化～ (建168 横山 春彦/1回) 2. 身近な動物たちの行動～何がどう面白いのか?～ (建222 三浦 直樹/1回) 3. ゲノム・遺伝子からみる人と動物のつながり (建212 坂巻 祥孝/1回) 4. 昆虫の感覚とコミュニケーション」 (建221 西 隆昭/1回) 5. 魚類の磁気感覚 (建123 安樂 和彦/1回) 6. 魚類の聴側線感覚と行動 (建193 池永 隆徳/1回) 7. 魚の化学感覚と行動 (建30 内山 博之/1回) 8. 動物の生態と視覚系 (建225 三浦 裕仁/1回) 9. おいしさの化学感覚 (建88 奥野 浩行/1回) 10. マウス行動学から探る学習・記憶・情動などの脳高次機能 (建71 桑木 共之/1回) 11. 闘争・逃走行動を担う心と身体のからくり (建91 田川 義晃/1回) 12. 意識を生む脳の配線のしくみ (建106 齋藤 充/1回) 13. 食欲の脳科学 (建43 富原 一哉/1回) 14. 繁殖と脳の進化との関係 (建235 富山 清升/1回) 15. 進化学からみた動物行動学：血縁選択説とゲーム理論	
		力学入門 I	力学は力とそれによる物体の運動に関する学問である。授業は、力学における物理量と基本法則、及び力学現象について理解するとともに、科学的思考に関する能力を身につけることを目的とする。 授業内容としては、運動の法則、質点の力学、質点系の力学、および剛体の力学を学習する。授業は講義、演習と課題レポート、小テストおよび期末試験を組み合わせた方法で行う
	依頼・介入関係の基礎概念	授業の目的は、依頼者と介入者の関係で問題となる基本的な概念や状況を知ることである。 授業の内容は、重要な一般教養としての側面を持ち、福祉・心理臨床・教育などとも共通するテーマが多い。結論の得られないテーマも多く含まれるが、臨床の場面で遭遇する多くの問題の背景について熟考するきっかけを得ることができる。 授業の方法は、具体例を提示し、問題点について各自で考察し、その後関連する多様な立場を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (自然科学分野)	遺伝のしくみ	<p>目的：19世紀後半にメンデルが構築した「仮想的粒子としての遺伝子」に基づく遺伝のしくみから、20世紀半ばに発見された「物質としての遺伝子」DNAに基づく新しい遺伝のしくみまで、遺伝学の基礎を理解する。</p> <p>内容：細胞分裂、メンデルの法則、連鎖、遺伝子の発現、突然変異など。また、遺伝のしくみに関連する最近の諸問題も学ぶ。</p> <p>方法：教科書の図表をスクリーンに映し、解説する形で進める。紙に印刷した補足資料を配布することもある。実験材料、実験器具を回覧し、手にとってもらうことも計画している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建214 一谷 勝之/8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「遺伝のしくみ」とは 一授業紹介ー</li> <li>2. 細胞 (遺伝以前の生物学の基礎)</li> <li>3. 染色体、細胞周期および細胞分裂</li> <li>4. 遺伝におけるメンデルの法則とは何か?</li> <li>5. 対立遺伝子と遺伝子間相互作用</li> <li>6. 遺伝子と染色体との関係、核外にある遺伝子の影響</li> <li>7. これまでの復習(問題演習)</li> <li>8. これまでの復習と身近な遺伝学</li> </ol> <p>(建142 田浦 悟/7回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 遺伝子がDNAである証拠、DNAの構造</li> <li>10. DNAの複製と修復</li> <li>11. DNAからタンパク質へ</li> <li>12. 翻訳後修飾と突然変異</li> <li>13. ウィルスと原核生物の遺伝学</li> <li>14. 真核生物のゲノム</li> <li>15. 真核生物の遺伝子発現</li> </ol>	オムニバス方式
	宇宙の利用	<p>鹿児島県は種子島・内之浦と宇宙基地を2つ有し、薩摩川内市には国立天文台と鹿児島大学が運営する電波望遠鏡、江戸時代には天文観測を行い薩摩暦を編纂した島津家の明時館(天文館)とまさに宇宙県と呼ぶにふさわしい。</p> <p>本授業では(1)日本の宇宙活動の現況と将来計画、(2)地球は、現在気候温暖化・人口増加・食糧危機等の様々な問題に直面している。これらの問題に対処するため。宇宙から地球を眺め現状を把握する(リモートセンシング)とともに、気候温暖化、食糧危機に対応する緒方策について考察を行なう、(3)宇宙科学の最前線の紹介(4)島津家の天文研究所である天文館(明時館)等について紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建311 面高 俊宏/12回)</p> <p>オリエンテーション及び宇宙科学への応用等について講義を行う。</p> <p>(建17 片野田 洋/1回)</p> <p>古くて新しい安全なロケット：ハイブリッドロケットについて講義を行う。</p> <p>(建121 西 隆一郎/2回)</p> <p>リモートセンシングの海洋への利用について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	教養微分積分学	<p>講義の目的は、現代数学の基礎をなす微分積分学の発展の歴史、理論の進展に貢献した数学者たちの業績、微分積分学の重要な概念について学ぶことである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微分積分学における諸概念がどのようにして生まれたかを理解する。</li> <li>2. 微分積分学の発展に貢献した数学者たちの業績を知る。</li> </ol>	
	健康管理	<p>目的：巷にあふれている健康や疾病等に関する情報に惑わされることがないように、自分の健康について考え、疾病の予防に取り組む姿勢等を身につける。</p> <p>内容：学生生活を送る上で罹患しやすい疾病の病因・症状・治療・予防等について解りやすく解説する。</p> <p>方法：授業はプリント配布・パワーポイント等を使って講義形式で行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目 教養 教育 科目 教養 基礎 科目 (自然科学 分野)	焼酎	<p>授業の目的は、南九州に根ざした食品産業である焼酎に関して理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業の内容は、南九州の重要な地場製品である焼酎について、嗜好品としての特徴は当然であるが、その歴史、文化、経済、製造法、さらに健康関連副産物、環境に関わる後処理技術等の講義を行う。</p> <p>授業の方法は、多数の非常勤講師が参加するが、各講義において講義終了前にレポート(学習の振り返り)提出を義務づけている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建117 高峯 和則/11回) 焼酎の嗜好品としての位置づけ、歴史、文化、経済、製造法等についての講義及び本講義の総括を行う。</p> <p>(建114 玉置 尚徳/1回) 焼酎醸造微生物学について講義を行う。</p> <p>(建220 二神 泰基/1回) 発酵とバイオテクノロジーについて講義を行う。</p> <p>(建119 北原 兼文/1回) サツマイモの歴史・特性・利用について講義を行う。</p> <p>(建219 吉崎由美子/1回) 焼酎の香りと官能検査について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	乗り物の物理学	<p>鉄道、ロケット、航空機を中心に、それらが機能する基本原理と物理学との関連を解説する。これによって、高校までに習った物理学が実生活ではどのように応用されているかを実例を通じて紹介する。</p> <p>1)身近な機械装置やシステムの背後に物理学があることに考えが及ぶ。 2)様々な装置やシステムの動作原理を考慮することに意義を見つけられる。 3)高校までに習う物理学が実生活でもいかに役立っているかを納得できるようになる。</p>	
	食品・化粧品・医薬品の有機化学	<p>身の回りの物質も、我々の身体も、すべて「化学物質」である。化学的な知識を持って、日常生活に使われるさまざまな「モノ」を見直すことで、その構造と機能をよりよく理解することができる。また、それらの有用性や有害性を理解することで、安全で快適な日常生活を送ることができる。この講義は、化学、とくに有機化学的な視点から、日常生活に用いられる様々な物質を見直し、その機能についてより深く理解することを目的としている。一学期間の講義を通じて、特定の化学的な事項について自分自身で調査し、レポートを作成する。受講対象は、化学を専門としない全分野の学生であるが、高校レベルの化学知識を必要とする。</p>	
	身近な話題の生物学	<p>身近なテーマをキーワードとして、細胞のいとなみや遺伝の様式に関して、生物学の基礎的な知識を更に発展させて理解を深めると共に、生物をとりまく環境の問題にもふれます。細胞の発見、構造、化学成分、遺伝のしくみ、遺伝子とは何か、食物をとりいれエネルギーを得るしくみ、情報の伝達、生体を防御する仕組み、などをわかりやすく説明し、生命とは何か、生きていることは何かを、生物科学の内容を通して考えていきます</p>	
	世界を変えた有機分子	<p>有機化学は、昔から知られている科学分野の1つでありながら、その多様性から、高校の授業ではごく一部しか学習する機会が与えられなかった。この授業の目的は、これまで学ぶ内容が限られていた有機化学について、大学生として、広く深い視点を獲得するために、社会に大きな影響を与えた有機分子について、歴史的な背景とその研究について学習することを目的とする。</p> <p>授業内容としては、歴史の流れに沿って様々な有機分子の発見と合成について学習し、社会への影響や研究に寄与した化学者を含めた、広範な内容についても解説する。</p>	
	生化学実験 I	<p>生命科学や医学に対する理解を深めるために、講義を受けるだけでなく、実際の生命現象の観察や実験を行う科目である。学生は、分子生物学、生化学の基本的な実験手法を習得するだけでなく、その原理を理解することによって、基本的生命現象や各種疾患の発症機構に興味を持つことを目標とする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 教育 科目	教養 教育 科目 選 択 科 目  (自然科学分野)	生物とリズム		
		生命科学	<p>私たちはふつう夜寝て、昼間活動している。それに対してラットやゴキブリは夜行性の動物で、暗くなると活動を始める。これら昼夜の活動はからだの中にある生物時計が、明暗サイクルに同調することでおこる。この生物時計がどのような性質をもつかを理解し、私達人間にとっても不可欠なものであるかを知ってほしい。理解を深めるために動物のからだの仕組みと働きについても解説する</p>	
		生命科学	<p>近年、生命現象を理解しようとする試みが、学問のあらゆる分野、立場から精力的になされ、次々と新しい事実が解明されてきている。一方、生命現象とは無関係に開発された過去の科学技術が、自然現象との調和を欠き、その結果、公害問題、医療問題、地球環境の問題など、大きな自然科学上の問題を引き起こしたことは周知である。生命現象の理解が総合的に深まるにつれて、生命と調和した科学技術の発展が望まれている。バイオテクノロジーと称する科学技術もその一つである。本講義では生命現象の科学「生命科学」の発展の現状と、生命現象に関わる自然科学的、社会科学的問題点、および研究課題を総合的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建263 横川 由起子/4回) 欲しいものを創り出す有機合成等について講義を行う。 (建190 濱田 季之/1回) 南方系の動植物に含まれる薬や毒について講義を行う。 (建62 笠井 聖仙/1回) 神経について講義を行う。 (建63 内海 俊樹/1回) 植物と微生物の多様な共生について講義を行う。 (建203 山口 泰平/1回) 病原微生物と感染対策について講義を行う。 (建208 岡本 繁久/1回) 遺伝子組換え植物について講義を行う。 (建189 有馬 一成/1回) 生命と酵素について講義を行う。 (建65 新留 康郎/1回) パイオプロープに用いる金について講義を行う。 (建215 藤田 清貴/1回) 糖鎖の働きについて講義を行う。 (建28 橋本 雅仁/1回) 免疫系と共生微生物について講義を行う。 (建193 池永 隆徳/1回) 化学受容の仕組みについて講義を行う。 (建256 澤田 剛/1回) 機器分析施設について講義を行う。</p>	オムニバス方式
生命科学情報活用1	情報の早い英語文献Nature, Journal of Biological Chemistry, Molecular and cellular biologyなどの科学雑誌からMolecular biology of the Cellのような総説、教科書的なものまで対象とし、医学、生物学上重要なトピックスに関わる物を選出し論文抄読します。学生は、単に和訳するのではなく、参考文献や引用文献の検索や調査といった過程を通じて、限られた期日で文献で描かれている内容を理解するやり方の習得を目標とします。	共同		

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (自然科学分野)	地震と火山	<p>日本は大地震、火山噴火がしばしば発生する地域です。広域被害をもたらす大地震の発生や火山噴火現象は広く報道され多くの情報が提供されますが、それらの自然現象に対する基礎的な科学的知識に基づき的確に理解し判断することが大切です。この授業では、地震や火山に関する基礎的な科学的知識をトピックス別に学び、地震や火山に関して適切に理解を深めることを目的としています。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建61 宮町 宏樹/8回)</p> <p>(1) 地震予知と火山噴火予知 (2) 地震の基礎知識 1 (3) 地震の基礎知識 2 (4) 巨大地震と津波 (5) 九州の地震活動 (6) 火山とマグマ (7) 火山噴火のタイプ (8) 桜島火山 (建66 中尾 茂/7回)</p> <p>(9) 地震と火山の災害 (10) 地震の繰り返し (11) プレートテクトニクス (12) 過去の地震に学ぶ 1 (13) 過去の地震に学ぶ 2 (14) 地震や津波に備える (15) 火山活動に備える</p>	オムニバス方式
	電気電子工学入門	<p>幅広い電気電子工学分野の中から、(A) エネルギー源としての電気(電気エネルギー)、(B) 半導体エレクトロニクス技術および電子デバイス、(C) 無線通信システムの3分野の基礎について理解することを目標とする。具体的な到達目標は次の通りである。</p> <p>(1) 電気エネルギーの発生から消費までの各段階で用いられている原理や技術を理解する。 (2) 大規模集積回路→要素デバイス→材料の特性という体系を理解する。 (3) 無線通信の原理と最新技術等について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建150 田中 哲郎/5回)</p> <p>(1) 導入：電気電子工学とは (2) 電気エネルギー：電気をつくる (3) 電気エネルギー：電気を送る (4) 電気エネルギー：電気を使う (5) 電気エネルギー：電気をためる (建21 青野 祐美/5回)</p> <p>(6) 電子材料：バンド理論、金属、半導体 (1) (7) 電子材料：半導体 (2)、絶縁体、磁性体 (8) 電子材料：超伝導体など (9) 電子デバイス：基本電子素子 (10) 電子デバイス：次世代電子デバイス (建152 渡邊 俊夫/5回)</p> <p>(11) 無線通信システム：概要、構成 (12) 無線通信システム：ハードウェア技術 (13) 無線通信システム：信号処理技術 (14) 無線通信システム：標準化、産業化 (15) 無線通信システム：応用例</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 選択科目 (自然科学分野)	動物の病気	動物は生活する環境により、人との関係が強い家畜（産業動物）および伴侶動物と野生動物さらに実験動物とに区別され、これらの動物に発生する病気には動物固有の病気と人にも感染する共通の病気（人獣共通感染症）がある。 1. 授業の目的は、このような動物と人との病気を理解することである。 2. 授業の内容は、様々な動物における体の構造と機能を理解し、動物に感染する病原体による病気や病原体とは関係なく発生する病気の概要や要因を学び、さらに動物の病気の診断法、治療法、予防法についての知識を修得できるように構成している。 3. 授業の方法は、主にスライドを利用した講義形式で、共同獣医学部所属の15名の教員が担当し、必要に応じて資料を配布する。毎回、その回の授業に関してあるいは各担当教員が指示する課題についてのレポートを授業時間中に作成して提出する。  (オムニバス方式/全15回)  (建301 辻尾 祐志) 1. 動物の体の形態的構造および機能 (建128 白石 光也) 2. 病気とは何か、その成り立ち (建226 有村 卓朗) 3. 病気の要因 (建125 三好 宣彰) 4. 動物に発生するがんの形態 (建231 正谷 達磨) 5. ヒトと動物の共通感染症 (建230 小澤 真) 6. 動物に感染するウイルス (建127 田仲 哲也) 7. 動物に感染する原虫と節足動物 (建227 安藤 匡子) 8. 動物に感染する細菌による病気 (建229 高橋 雅) 9. 伴侶動物の癌治療 (建223 矢吹 映) 10. 動物の腎泌尿器疾患 (建224 藤木 誠) 11. 使役犬の関節疾患 (建302 石川 真悟) 12. 動物の病気と免疫 (建222 三浦 直樹) 13. 動物の病気の画像診断 (建228 安藤 貴朗) 14. 動物の繁殖における病気の治療法と予防法 (建126 大和 修) 15. 動物の遺伝病	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目 (自然科学分野)	暮らしの中のバイオ	<p>バイオテクノロジー(バイオ)は種々の生物の活動を分子レベルで解析し、理解しながら、それらの成分、産物、機能を最大限に活用して人の生活を豊かにする技術である。これらに関する技術は21世紀を拓く先端技術の1つとして、近年の生物学、生化学、工学、分子生物学の飛躍的な発展により誕生して、社会の認知と理解を得ながら発展し実用化されている。そして、今後一層の進展が期待されている。本講義ではバイオの基礎となる、私たちの食の素材・歴史・科学を学び、そこに込められている人類の経験と叡智に触れ、さらに酵素や遺伝子の働きや利用までをその分野のエキスパートから分かりやすく学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建113 侯 徳興/3回) 微生物とお酒及び黒酢の機能等について講義を行う。 (建300 鶴丸 博人/1回) 環境中の微生物の働きについて講義を行う。 (建117 高峯 和則/1回) 焼酎の香りの科学について講義を行う。 (建209 南 雄二/1回) 体をまもるペプチドについて講義を行う。 (建215 藤田 清貴/1回) 糖質のバイオについて講義を行う。 (建115 境 雅夫/1回) 微生物による環境保全について講義を行う。 (建299 坂尾 こず枝/1回) 食品の機能性と特定保健用食品について講義を行う。 (建120 石橋 松二郎/1回) 微生物と醤油について講義を行う。 (建217 中村 正幸/1回) 微生物と植物の病気について講義を行う。 (建211 花城 勲/1回) 日常生活品と酵素について講義を行う。 (建114 玉置 尚徳/1回) 生命科学研究と酵母について講義を行う。 (建108 ヒッシヤム・イブラヒム) 感染症と戦う機能性ペプチドについて講義を行う。 (建216 宮田 健/1回) ワクチンと予防接種について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	放射線とくらし・地域	<p>本授業では、放射性物質や放射線について、その発生の原因や私達に与える影響、放射線の利用に関する諸原理や技術の基礎を理解することを目的とする。このため、本授業では、現代物理の基礎に触れ、原子と原子核の構造について学ぶ。原子由来の放射線として、医療から工業まで幅広く用いられるX線の性質を学び、私達の暮らしの中だけではなく、科学技術にも応用されている例を学ぶ。また、原子核由来の放射線としてα線、β線、γ線、及び放射線と物質との相互作用について学び、放射線が私達の体に与える影響について基礎的な知識を得るとともに、生物学的影響を加味した線量の単位シーベルトで表される数値について理解する。加えて、原子力発電の原理について学ぶとともに、原子力関連の事故について調べる。これらの知識を体験的に深めるため、環境放射線測定、自然放射能測定、分析機器見学、霧箱作成などの実習を行うとともに、ディベートを通じて相互の理解力を高めよう。</p>	
	遊び心と科学	<p>科学 = 「眉間にシワを寄せて考え込むこと」ではありません。むしろ、身近な現象を科学の目で見るとは楽しいものです。ただ、楽しむためには少しばかり経験が必要かもしれません。そこで、この授業では、身近な道具やおもちゃ、映像などのネタを準備し、みんなで見たり、やったり、作ったり・・・といった経験をしてみます。経験を通じて、身近な世界に(科学的な)遊び心を持って接近できるようになることが授業の目的です。なお、数式はあまり使いません。できるだけ、やったり考えたりすることが中心の授業です。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養基礎科目(自然科学分野)	基礎統計学入門	この授業の目的は、実験や計測、調査などで得られたデータを処理するためには、統計的な解析が不可欠であることから、確率を基礎とした統計について学習するとともに、「データから何を読み取り、どう判断するか」という考え方を身に付けることを目的とする。 授業の内容は、データ処理を学習後、確率の基礎を学び、それをベースに統計的推測(推定と検定)について学習する。 授業の方法は、テキスト等による講義と演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
	課題発見 アメーバ経営における稲盛経営哲学	京セラ(株)が創業間もないころ、事業規模を次第に大きくしていく過程で、組織をどのようにコントロールしたらいいのかという、創業者の稲盛和夫氏の事業運営に関する素朴な悩みから閃いた、独自の経営手法である「アメーバ経営論」について、その経営手法が生まれた背景を詳しく辿り、アメーバ経営論の概念の学習を通じて、その根幹に宿された稲盛経営哲学の神髄を正しく理解することを目的とする。よって、本講義では「アメーバ経営論」の基礎を学びつつ稲盛経営哲学を広く理解することに努める。	
	Intercultural Understanding and Acceptance	1. To develop capacities to accept various thoughts and opinions which are different from yours, and to output your own thoughts and opinions, under the multicultural circumstance of the class. 2. To be more conscious that you are one of the members of the multi/transcultural globalized society.  1. 異なる価値観が交流する中で、相手の意見を受け取り、自らの意見を発信する能力を養う。 2. グローバル化の進む現代社会において、自らが多様な文化状況の中に生きている一人の人間であるという自覚を養う。	
	いのちと地域を守る防災学 I	授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかんがりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。後期の「いのちと地域を守る防災学II」と対になる構成となっており、前期の本授業では、災害を知り、それに対する対処・対策を考えることに重きが置かれている。  オムニバス方式/全15回  (建192 小林 励司/2回) 自然災害や地震の仕組み等について講義する。 (建239 井村 隆介/1回) 鹿児島市の自然災害史について講義する。 (建157 柿沼 太郎/1回) 津波のしくみと被害について講義する。 (建23 安達 貴浩/1回) 風水害と対策について講義する。 (建158 木村 至伸/1回) 社会基盤の地震被害について講義する。 (建313 浅野 敏之/1回) 避難と避難行動について講義する。 (建135 岩船 昌起/1回) 島嶼の自然災害について講義する。 (建111 地頭蘭 隆/1回) 土砂災害と対策について講義する。 (建79 松成 裕子/1回) 災害時における医療活動について講義する。 (建258 八木原 寛/1回) 火山噴火のしくみと被害について講義する。 (建182 佐藤 宏之/1回) 歴史災害に学ぶ防災意識について講義する。 (建237 福満 博隆/1回) 自然体験活動と防災及び避難生活者の健康づくり支援について講義する。 (建297 平 瑞樹/1回) 中山間地域における地盤災害と農地復旧対策について講義する。 (建184 黒光 貴峰/1回) 学校教育における防災教育の実情と課題について講義する。	オムニバス方式



授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目	教養教育科目 教養活用科目 (統合Ⅰ)	課題発見	
	かごしま教養プログラム	この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を生かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習し、グループテーマについて取りまとめと発表を行います。 (1)講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 (2)グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 (3)テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。	集中
	キャリアデザイン	授業の目的は、鹿児島大学生がおかれている状況や働くことに関する基礎知識について学ぶとともに、人生を通して柔軟にキャリアを形成していこうとする姿勢を養うことで、社会人となるための基礎力を身に付けることである。授業では、自分自身の適性や価値観の気づきに加え、他者との違いや多角的なものの見方について考えることを重視する。授業の内容は、座学および多彩なゲストスピーカーによる講話である。  (オムニバス方式/全15回)  (建304 高丸 理香/15回) 授業の総括及びキャリアデザインの基本的知識等について講義を行う。 (建245 藤村 一郎/15回) 授業の総括及びシティズンシップとキャリア等について講義を行う。 (建241 渡邊 弘/2回) 経済とキャリアについて講義を行う。 (建319 福富 渉/1回) グローバルとキャリアについて講義を行う。 (建305 森 裕生/1回) 情報とキャリアについて講義を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
	グローバル・イニシアティブ概論	本授業は共通教育科目として実施される種々の海外研修に参加した学生を対象に、事後学習として行う。様々な異なる地域を訪れた学生たちが、研修先での経験を報告しあい、共有し、議論しあうことを通して、海外でのそれぞれの「気づき」を言葉で表現し、確かなものにする。また、お互いに切磋琢磨しあう中から、さらにステップアップするための方向性を見つけるよう導く。授業内容には、海外研修に参加した学生同士のグループワークに加えて、国際舞台で活躍する著名な方の講演、長期海外留学や企業やNGOにおける海外インターンに関する情報提供、語学学習のサポートなども含まれる。	
グローバル社会を生きる	国家や国民を意味するnationを基本単位としたinternationalとは異なり、globalは世界を一体化したものとして考えることを意味する。そこでは、世界で起きているさまざまな出来事は、自分とは関係のない遠い世界のことではなく、自ら解決方法を考えなければならないものとなる。ヒト・モノ・カネがかつてないほど流動性を持つ現在、世界をどのように捉えて、自らコミットしていくべきなのかについて、本講義で共に考えていく。講義が基本となるが、随時、グループディスカッションなどを含めながら進めていく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養活用科目 課題発見	男女共同参画社会	<p>共生社会、特に性別に関わらずその個性と能力を發揮できる男女共同参画社会を実現するために、様々な領域における男女共同参画を考えることによって、多様性を尊重する意識の醸成を目的とする。授業では、アクティブラーニングを通して、自分自身の生き方や他者及び社会との関わり方を明確化する</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建183 浅野 陽樹/6回、建56 橋口 知/6回)</p> <p>第1回 授業概要と自分自身のふり返り 第2回 大学：鹿児島大学における男女共同参画 第3回 地域：鹿児島市の取組から男女共同参画を考える 第11回 図書：関連書籍から男女共同参画を考える 第12回 家庭：介護問題から男女共同参画を考える 第15回 まとめ：学生の立場から男女共同参画社会を考える</p> <p>(建179 菅野 康太/2回)</p> <p>第4回 神経科学：脳科学からみた男女共同参画1 第5回 神経科学：脳科学からみた男女共同参画2</p> <p>(建187 石橋 愛架/1回)</p> <p>第6回 家政学：多重債務に陥るシミュレーションから日々の家計管理を考える</p> <p>(建241 渡邊 弘/2回)</p> <p>第7回 法学：憲法と男女共同参画1 第8回 法学：憲法と男女共同参画2</p> <p>(建317 森田 豊子/2回)</p> <p>第9回 政治学：国際関係論からみた男女共同参画1 第10回 政治学：国際関係論からみた男女共同参画2</p> <p>(建135 岩船 昌起/2回)</p> <p>第13回 防災学：災害対応における男女共同参画を考える1 第14回 防災学：災害対応における男女共同参画を考える2</p>	オムニバス方式
	地域リサーチ・スタートアップ	<p>本講義は、「地域人材育成プラットフォーム」の「かごしま地域リサーチ・プログラム」のスタートアップ科目として、地域でリサーチ活動を行う際の基礎的な手法を修得することを目的とするものである。鹿児島が抱える4つの地域課題に対する様々なアプローチ方法を知り、地域リサーチの具体的手法に対する理解を深める。</p>	共同
	防災フィールドワーク	<p>この講義では、地域防災に係わる自然現象や社会問題等を素材にし、鹿児島県の中でも特に桜島を対象地域として、10～2月の土曜日等の5日間で集中講義を行い、講義とグループ学習を行う。講義はグループでフィールドワークを展開していく上で基調となる地域防災に係わる内容であり、かつ「災害に遭った場合に役立つ基礎知識」が中心である。グループでのフィールドワークでは、講義の内容を生かした「桜島の地域防災」に係わるテーマを設定してもらおう。そして、学生間でよく協力し合いフィールドワークを進めて、グループテーマについて取りまとめと発表を行う。</p>	集中
環境ビジネス1	<p>環境ビジネスの考え方を学ぶと共に、実際に環境配慮イベントを開発し、展開することにより、知識と実践の融合を目指す。</p> <p>本講義では、基礎知識および行動枠組みを担当教員より与えつつ、受講生全員が計画立案、作物栽培、堆肥製造、イベント開発、イベント展開、さらには様々な協力主体との交渉を主体的に担当する。</p> <p>座学的要素だけではなく、ディスカッション、様々な実践、また資料づくりやプレゼンテーションの訓練など、総合的な教育方法を採用する。</p> <p>後期に環境ビジネス2を開講し、実際にイベント展開等を行うことになる。</p> <p>前期開講の環境ビジネス1では、その前提となる計画立案、作物栽培等が中心となる。環境ビジネス1と2は、連続して受講することを想定している。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 教育 科目	教養 教育 科目 (統 合 Ⅰ)	自然体験活動入門講座	農学部高隈演習琳に隣接し、垂水市と鹿児島大学が提携している垂水市立大野ESD自然学校(旧大野小中学校跡)をベースキャンプにして、高隈の森の自然を利用した野外活動を通して、自然とのふれあいを深め、仲間と協力して成し遂げる喜びを体験し、自分の可能性について見つめ直す学習をする。 1) 自然の中での生活を通して、自然と人間(自分)との関わりについて理解を深めることができる。 2) 仲間との共同生活を通して、人間(自分)と人間(他人)との関わりについて理解を深めることができる。 3) すべての活動を通して、自分自身について見つめ直し、自分の可能性について気づくことができる。	集中
		実用英語短期講座	TOEICテストのリスニング教材を使用して、実用英語の集中訓練を行います。短期集中による英語力の強化が主な内容です。担当者は、英語検定1級および通訳資格所有者ですので、主に英語を使用しつつ授業を行います。またテキストとは別に、ビデオかDVD教材(映画)も使用する予定です。予習は必要ありませんが、講義に出席して、しっかりと復習してください。なお、担当者は、英語検定1級、および通訳資格所有者で、鹿児島地区のTOEICスーパーバイザーも勤めていますので、TOEIC等の最新情報を提供します。	集中
		社会人としての救急措置入門	目的：これからの社会人は、ボランティアをはじめとして、緊急的な措置を要求される。もちろん、傍観者であることも選択肢であるわけだが、積極的に参画するという選択もあり、これが社会への積極的なアプローチとなる。そのような社会へ貢献するための最低限の知識・技術について修得する。 内容：本講義は、PAD I(認証団体)エマージェンシー・ファースト・レスポンス(EFR)インストラクターである教員が、EFRプログラムにしたがい、社会人に必要な緊急措置について講義する。 方法：講義と実技による。エマージェンシー・ファースト・レスポンス・プログラム2002年にエマージェンシーファースト レスポンスCorp.から発表されたものであり、国際的に認識された医療的ガイドラインである「AHA心肺蘇生と救急心血管治療の為に国際ガイドライン2005」に基づいている。また、これを基盤に、国際蘇生法連絡委員会(ILCOR=International Liaison Committee on Resuscitation)の基礎生命維持(BLS=Basic Life Support)部会のワーキンググループで作成された手順を採用している	
		大学で学ぶ	高校までと大学とは、学修や生活の仕方、周囲の人びととのかわり方など大きな違いがたくさんある。例えば、時間割は学生が自分で作る、毎日行くような特定の教室はない、細かく生活指導はされないといったことが挙げられる。また、時間割を自分で作ることから明らかなように、大学で何を学ぶのか、どのように時間を使うのかも自分で考えなくては行けない。大学生活を充実させるためには、大学の様々な制度や仕組みについて知っておく必要がある。本授業は、大学での学修をより効果的にしていくための基礎知識を身に付ける場である。  (オムニバス方式/全15回)  (建251 伊藤 奈賀子/10回) 大学とはどういうところなのか及び高大接続等について講義を行う。 (建233 出口 英樹/3回) 学習科学等について講義を行う。 (建305 森 裕生/2回) 大学の制度と仕組み等について講義を行う。	オムニバス方式
	大学生のための社会人基礎力入門	授業の目的は、これまでの自己を振り返り、教育学等の学問分野の基礎的な理論に触れながら、社会人になるためのマインド面を中心としたレディネスを形成することにある。 授業の内容は、キャリア、コミュニケーション、マーケティング、社会学、心理学の各基礎的理論の講義と演習、および理解を深めるためのコミュニケーションレポートを中心とする。 授業の方法は、担当教員と学生、および学生同士の双方向の議論を中心に展開する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通 教育 科目	教養 教育 科目 課題 発見	地球環境保全のための国際協力 地球環境の保全は人類共通の課題であり、様々なレベルで国際的な協力が進められている。我々の暮らしは世界とのかかわりなしには維持できないものになっており、地球的視野に立って暮らしや環境問題を考える視点が重要である。この授業では、地球環境の保全に焦点を当て、地球環境の現状、国際的に行われている協力の枠組みと実施状況、日本が行っている国際協力活動などについて学ぶことを通じて、国際協力活動の全体像と地球環境保全のための取組についての理解を深めるとともに、主体的な活動への動機づけを行うことを目的とする。 担当教員による講義のほか、ゲスト講師（国際協力機構（JICA）、鹿児島県、国際NGO関係者）がそれぞれの機関の活動（国際協力、国際交流、開発途上国支援活動など）について説明する。グループ討議では課題について小グループ討議を行い、各自が小レポートを作成する。	
	教養 活用 科目 （統合Ⅰ）	Intercultural Communication for Global Citizens The aim for the class is to get better Cultural intelligence (CQ=Cultural Quotient) required for the Global Citizen. Cultural intelligence is the capability to relate and work effectively in culturally diverse situations. To get the capability, the class focuses on Intercultural Communication. The class will adapt group work, case studies, a simulation game, VTR watching, the DIE method, role play, and culture assimilator.  このクラスの目的は、グローバル市民に求められるより良い文化的思考力（CQ=文化指数）を得ることである。文化指数とは、文化的に多様な状況と関連付け、またその中で効果的に働く能力である。この能力を得るために、このクラスは異文化間コミュニケーションに焦点を置く。このクラスは、グループワーク、事例研究、シミュレーションゲーム、VTR鑑賞、DIE法、ロールプレイ及び文化吸収を取り入れる。	
	教養 活用 科目 （統合Ⅱ）	いのちと地域を守る防災学Ⅱ 授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。前期の「いのちと地域を守る防災学Ⅰ」と対になる構成となっており、後期の本授業では、災害にかかわる情報を知り、新たな減災や危機管理の手法を身に着けることに重きが置かれている。また、鹿児島市消防局、鹿児島地方気象台、県危機管理課、県原子力安全対策課からの授業を用意しており、行政の防災関係機関の現場対応などを知ることができる。  (オムニバス方式/全15回)  (建192 小林 励司/2回) 災害と流言・風評、地震に関する知見・情報について講義する。 (建314 眞木 雅之/1回) 気象災害の監視と予測について講義する。 (建146 升屋 正人/2回) 大規模災害と情報通信Ⅰ、大規模災害と情報通信について講義する。 (建45 森尾 成之/1回) 自然災害に対する行政の危険防止責任について講義する。 (建171 関山 徹/2回) トラウマの理解と心理的ケアⅠ、トラウマの理解と心理的ケアについて講義する。 (建239 井村 隆介/1回) ハザードマップについて講義する。 (建172 小林 善仁/1回) 地域の復旧と復興について講義する。 (建79 松成 裕子/5回) 福島第一原発事故の概要と放射線による健康影響について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養活用科目 (統合Ⅱ)	海外研修基礎コース inカリフォルニア	この授業では、グローバル化が加速する世界における共通課題である「1. 多文化主義」「2. 経済格差と社会福祉」「3. グローバリゼーションへの地域の挑戦」について、最も先鋭的な形を見ることができるアメリカ合衆国・カリフォルニア州で海外研修を行う。これらの課題について米国地域社会の現状と対応を現場で学ぶことで、鹿児島地域の問題について「グローバル化する世界の中の鹿児島」という視点で捉え、外国人を含めたあらゆる人が住みよい地域社会にすることなど、大学も含めた地域社会に自身がどんな貢献ができるかを具体的に考えることを第一の目的とする。第二の目的は、アメリカの現状に触れて様々な分野の問題に関心を持ち、今後の専門教育の学びに活かすこと、第三は、世界中から移民が集まるリベラルな気風のカリフォルニア州で人的交流を最大限に行うことで、コミュニケーション力を強化するとともに国際的な広い視野を身につけ、人生や勉学に対する目標を定めて自己実現の基礎をつくることである。 「1. 多文化主義」については、サンノゼ大、サンフランシスコ州立大、ソノマ州立大で学生とワークショップや講義を受講する他、日系博物館で日系2、3世の人々、市民団体、アップル本社等企業視察を通して多様な交流を行って学びを深める。セバストポール市では1週間ホームステイを行う。「2. 経済格差と社会福祉」については、高齢者ケア施設「キモチ」、フードバンクや配食センター、フェアトレード企業や市民団体を訪問し、弱者保護やホームレス対策について学ぶ。「3. グローバリゼーションへの地域の挑戦」については、郷土出身の長沢鼎のブドウ園を見学し、地域住民へのインタビューを行って水を保全する農業開発等、地域農業の環境問題への取組みを学ぶ。	共同 集中
	海外研修基礎コース in東南アジア	シンガポールにおいて9泊10日で(1)大学訪問、語学研修、企業訪問、学生交流を行う。さらに、(2)歴史編(国立博物館等)、多文化共生編(リトル・インディア等)、ビジネス編(シンガポールマーケット等)に分けてフィールドワークを行う。さらに、(3)帰国後報告書のまとめと報告会を開催する。研修では、(1)世界の価値観を学び、勉学や人生に対する目標を定めるマインドセットを持つことを目的とする。(2)さらに、異なる文化や価値観を体験し、国際的な広い視野を身につけると共に、人生や勉学に対する目標を定め、自己実現の基礎とする。また、(3)フィールドワークを通して近代国家としてのシンガポールの成立、並びに、ビジネス・ハブの形成過程や今後のグローバル・トレンドについて学ぶ。全体を通して、日本人としてまた国際人として、海外で活躍できるプロフェッショナルになるための、スキル、経歴、人格などを理解する。	共同 集中
	海外研修基礎コース inハワイ	目的：世界の価値観を学び、勉学や人生に対する目標を定めるマインドセットを持つ事を目的とする。 内容と方法：事前学習の後、9泊10日で島嶼国ハワイにて、大学訪問、企業訪問、学生交流、研究所訪問、日本人プロフェッショナルによる講義などを行う。帰国後報告書のまとめと報告会を開催する。 Brigham Young Hawaii 大学の英語学習・交流プログラムに参加することで、島嶼国家としてのハワイの成立や現状について学ぶと共に、現地の学生との交流や語学学習を行う。また、ハワイで活躍する研究者や日本人プロフェッショナルとのディスカッションを通して、異なる文化や価値観を体験し、国際的な広い視野を身につけると共に、人生や勉学に対する目標を定め、自己実現の基礎とする。日本人としてまた国際人として、海外で活躍できるプロフェッショナルになるための、スキル、経歴、人格などを理解する	共同 集中
	かごしまフィールド スクール	地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などに関する地域や施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や課題について実践的に学習して、課題を解決する方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。このような活動を通して、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけるとともに、自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通教育科目 教養教育科目 教養活用科目 (統合Ⅱ)	がんはなぜおこるのか	<p>医学部の基礎、臨床の教員、それぞれの分野の専門家が分担して行うオムニバス講義です。日本人の死因の第一位は悪性腫瘍(がん)で、誰もがかかる可能性がある病気です。がんとはどんな病気であるのかを理解し、がんの予防、診断、治療について適切な知識を得る、ために。1.がんはどのように発生するのか? 2.がん細胞と正常な細胞は何がちがっているのか? 3.がん細胞はどのように進展し、死をひきおこすのか? 4.適切な予防、発見および治療法にどのようなものがあるのかなどについて、学びます。また、本学で行われている先進的な研究についても一部紹介します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(建73 古川 龍彦/5回) がんの発生と細胞及びがんがなぜおこるのかについて講義を行う。 (建293 山本 雅達/1回) 遺伝子改変動物を用いた理解について講義を行う。 (建271 神尾 真樹/1回) 婦人科のがんについて講義を行う。 (建82 小賤健一郎/1回) がんの新しい治療について講義を行う。 (建264 森内 昭博/1回) 肝臓がんについて講義を行う。 (建83 大脇 哲洋/1回) 消化器のがんについて講義を行う。 (建87 郡山 千早/1回) 生活習慣とがんについて講義を行う。 (建323 加治 健/1回) 小児のがんについて講義を行う。 (建68 中川 昌之/1回) 膀胱がん、前立腺がんについて講義を行う。 (建232 東 美智代/1回) 病理からみたがんについて講義を行う。 (建196 岡本 康裕/1回) 小児白血病について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	グローバル人材育成 (米国ノースダコタ)	<p>本授業は北米の大学に実際に留学したときと同じ環境を体験し、大学で授業や生活を通して、将来国際社会で活躍するために自分に何が欠けているか「気付き」を得ることを目的とする。本学と協定関係にあるノースダコタ州立大学(NDSU)に3週間滞在学习し、英語特訓クラス、グローバル・スタディーズ基礎科目及び、各自の専門科目の授業への参加などを通して自立的に学ぶ。NDSUのキャンパスでの授業や野外での活動に参加することによって、受講生は米国での学生生活を体験し、友人を作り、非常に高いレベルの教育効果を上げることができる。</p>	共同 集中
	国際感覚を持つバイテック人材育成	<p>本研修の目的は、国際的に活躍できると同時に地域社会に貢献できるバイテック人材になるための切掛けを参加学生に与えることである。このため、モンクット王工科大学トンプリー校(タイ、バンコク市)を拠点として、英語によるプレゼンテーション、バイテック関連講義の受講、問題発見解決型学習を通じた相手校学生とのグループ学習などを行う。また、農産業関連施設(ラン農園、市場など)や食品製造工場等を視察する。加えて、歴史・文化施設、王宮などの視察も行う。現地活動を通じて、国際感覚、コミュニケーション能力、協調性、ビジネス感覚を養うとともに、アジアの親しい隣人であるタイ人の特性を理解する。</p>	共同 集中
	国際協力体験講座ーミャンマーコースー	<p>民主化に伴い、大きく変わりつつあるミャンマーを訪問します。北部にあるインレ湖周辺の農村を訪問し、1)そこで営まれる伝統農業に触れ、アジア農業の持つ魅力と今後の課題を見つけます。2)また、現地で活動するNPOの国際協力活動の現場を訪れ、アジアの農村を舞台にした(主に農業分野での)国際協力の意義やあり方を皆で学びます。</p>	共同 集中

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 教育 科目	教養 教育 科目	課題 解決	集中	
	教養 活用 科目 (統合Ⅱ)	シラス地域学		地球上のある範囲に人間が居住することによって「地域」は生成する。この講義では、約3万年前に噴出した始良入戸火砕流からなる「シラス」を中心に据え、土地環境と人間活動の関係から南九州という地域について考えていく。この際時代的展開を基軸にするのは、地域社会や文化そして私たち自身も時を経て醸成され、伝えられてきた存在だからである。地元の特性や身近な景観がもっているストーリーを見出せる足元をみる目は、グローバル時代に極めて重要なセンスといえる。南九州を事例に培った地域の捉え方は、世界のどの地域に対しても適応できる尺度となりうるものである。 ビデオ・スライド等の視覚提示を適宜活用し、さらに地図作業や野外観察を組み込み、授業内容の効率的な理解に役立てる。
	進取の精神海外研修 inベトナム	本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度(進取の精神)を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことである。 授業では、まず、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解するために、本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学ぶ。日本と同様に中国より仏教や文化が伝播したベトナムでは、ベトナム国民は長い間、中国、フランスによる長期間の侵略やベトナム戦争に堪えた後、現在、国土の復興と産業等の振興に懸命に取り組んでいる。 さらにベトナムを直接訪問し、農業、産業、工業などベトナムの様々な取り組みを実際に体験し、様々な立場で国の発展を支えている多くのベトナム国民と交流する。また、稲盛アカデミーベトナム事務所日本語・日本事情を学び本学への留学に果敢に挑戦する若者や、ベトナム支援活動等を行っている日本人の若者とも交流する。これらの事前事後の講義や現地での体験学習を通じて、ベトナム文化、歴史、産業の実態を深く理解し、進取の精神を涵養するとともに、グローバルな視点を持った実践力を育む。  (オムニバス方式/全15回)  (建24 山口 明伸/12回)事前指導、現地引率、事後指導。 (建259 吉田 健一/ 3回)事前事後指導。 (建316 牧原 千尋/ 3回)事前事後指導。 (建283 劉 美玲/12回)事前指導、現地引率、事後指導。		オムニバス方式・共同(一部)・集中
ヒトの身体の仕組みと働き	授業の目的は、人体を構成する代表的な器官(臓器)、すなわち循環器系、呼吸器系、消化器系、脳神経系、泌尿・生殖器系、筋骨格系などについて、その解剖学的仕組みと働きを理解することである。 授業の内容は、身体の基本的な営みである血液循環、呼吸、消化吸収、ホルモン作用、神経機能、生殖妊娠、分娩、免疫、睡眠などについて、ヒトの健康や疾病と関連付けながら解説する。 授業の方法はスライド、プリントなどの資料を用いて、講義形式の授業を行う。 (オムニバス方式/全15回)  (建81 赤崎 安昭/4回) 性格と人格及び記憶と知能について講義する。 (建78 新地 洋之/4回) 消化管の構造と機能及び肝・胆・膵の構造と機能について講義する。 (建77 沖 利通)/4回) 性差とホルモンの働き及び生殖器の働き一妊娠から分娩まで一について講義する。 (建92 根路銘 安仁/3回) 免疫・アレルギー及び成長発達について講義する。	オムニバス方式		

授 業 科 目 の 概 要					
(工学部 建築学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考		
共通 教育 科目	教養 教育 科目 (統合Ⅱ)	課題 解決	ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅰ	ヒトの病気には原因があり、症状や障害をもたらす仕組みがある。これを知ることによって病気の予防が可能となる。ここでは広く日常的にみられる病気や関心を集めている病気について、それぞれの領域の専門医が分かりやすく解説する。方法は、通常の板書による講義に加え、必要に応じてスライドやプリントなどを用いて教授する。  (オムニバス方式/全15回)  (建81 赤崎 安昭/4回) うつ病、統合失調症及び15.神経症性障害・パーソナリティ障害など重要な疾患について講義を行う。 (建92 根路銘 安仁/4回) たばことお酒及び発達障害について講義を行う。 (建77 沖 利通/4回) 性感染症及び婦人科がんについて講義を行う。 (建78 新地 洋之/3回) がんの成り立ちと予防及びがんの診断と治療について講義を行う。	オムニバス方式
			ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅱ	発生頻度の高いありふれた病気、最近注目されている病気、大学生が気をつけなければならない病気等の原因や症状、経過、治療、予防について、専門家が分かりやすく解説する。また、高齢者の慢性疾患の増加に伴う障害モデルの発展や臓器移植等、社会的関心が高いテーマについても取り上げる  (オムニバス方式/全15回)  (建92 根路銘 安仁/4回) たばことお酒、アレルギー及び肥満とやせについて講義を行う。 (建77 沖 利通/4回) 妊娠の異常、分娩の異常及び不妊症と生殖補助医療について講義を行う。 (建78 新地 洋之/4回) がんの成り立ち、がんの予防及びがん診断と治療について講義を行う。 (建81 赤崎 安昭/3回) 精神的な病気とその予防について講義を行う。	オムニバス方式
			留学生のための異文化理解	留学生と、これから協定校に派遣留学が決まっている日本人学生がともに学ぶ授業である。互いの共通点である「留学」に着目して、協働学習を行う。授業を通して、文化とは何かについて理解し、文化の相対性、多様な価値観の存在、異文化適応のモデル等について自らの経験を分かち合いながら学ぶ。方法は、グループ討論、ゲーム、VTR視聴、ロールプレイ、ケーススタディ、プレゼンテーションなどである。これらを原則として英語で行う。	
			医学・脳科学入門	授業の目的は、自分を含めた生物としてのヒトの脳機能の正常と病気に関する興味と理解を深めることである。 授業の方法は教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。	共同
			稲盛和夫のリーダー論	授業の目的は『西郷南洲翁遺訓』にまとめられた西郷南洲の教えから、リーダーとしての生き方、考え方をまとめた稲盛氏の著書『人生の王道』をテキストとして取り上げ、稲盛和夫氏の生い立ちや生き方を通しながら、真のリーダーシップを学ぶことである。 授業の内容は『人生の王道』を章ごとに読み解いていく。その際に、本来の『西郷南洲翁遺訓』そのものの中身を熟読玩味しつつ(つまりは、西郷隆盛の人間観、政治観、リーダー観などをまずは理解する)、その『遺訓』を稲盛氏が自らの人生と経営に如何に生かして来たかの両方の視点から解説する。 授業の方法は、指定したテキストを使いながら解説して行くが、予め配付する要約資料も活用する。	